

愛道

あいどう

トピックス

足羽福祉会

新春作品展

第 **118** 号

2015年1月1日発行

新年のごあいさつ



足羽福祉会 理事長
高村 昌裕

新年明けましておめでとうございます。

昨年も社会福祉をめぐるさまざまな出来事がありました。私の中でもっとも大きな出来事は、1月に日本政府が国連の「障害者権利条約」をようやく批准したことです。

社会福祉の歴史の中で、障がいのある方は長い間「保護」の対象ではあっても「権利」の主体とは認めてこられませんでした。では障がいのある方の権利とはどんなことをさすのでしょうか？

障害者権利条約では、障がいがあっても他の障がいのない方たちと同じように社会の中で生きる権利として「子どもとしての権利」「女性としての権利」「暴力から守られる権利」「どこで暮らすかを定める権利」「労働の権利」など具体的に列挙されています。本人の障がい理由となつてこうした権利が守られないのではなく、制度・環境や私たちの見方や行動を変えていくことで、人としての権利を果たしていこうという考えです。そしてこの条約には「ピープル・ファースト(People First)」＝「障害者である前に人として」見てほしいという当事者の思いが託されています。

実はこの考えは、私たちの介護サービスや障害者支援において大切にしている考えに通じています。愛全園や足羽利生苑のサービス提供指針には「その人の生き方に尊

敬を」という言葉が、そして足羽学園・足羽更生園をはじめすべての障害福祉サービス事業所のサービス提供指針には「その人らしさを尊び」という言葉が、それぞれ最初に掲げられています。

私たちの仕事は、とすれば認知症や知的障害といったその人のマイナスの部分への対応にばかり目を向けがちです。また本人とかかわる時間が長いことから、その人の生活を自分たちだけで支えているとも思いがちです。

しかし「その人の生き方」や「その人らしさ」とは、各サービス事業所の中だけで自己完結するものではなく、家族や社会の中で、さまざまな場所や人とのつながりの中で実現されてきたのです。そして介護を受けるようになって障がいがあっても、自分らしく生きることを応援していくべきなのです。そのためには、私たち福祉従事者は介護や支援、保育それぞれの分野における専門的技能だけでなく、利用されるお一人おひとりを中心として、認知症や障害者である前に一人の人間として共感し、共に悩み、共に笑い、共に生きていくといった「人としての総合力」＝「人間力」を向上させねばなりません。

本年も、利用される皆様と笑顔のやり取りがたくさんできるよう、また地域社会が自分らしく暮らせる安心・安全の場であるよう、職員一同、心を尽くして行動します。何とぞ皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

施設長の 「座右のメエ〜」

こつこつの
ユツ

今日
自分が
できる
精一杯

足羽東保育園
園長 矢納 ともえ

自
灯
明

あすわ就労支援センター
センター長 大館 嘉昭

友と生き
友と喜ぶ

足羽学園・足羽更生園
園長 嶋田 富士男

実
至
行
誠

あすわ相談支援センター・
あすわ地域生活支援センター・
あすわ児童発達支援センター
センター長 高村 昌裕

徹
凡
底
事

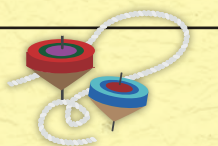
愛全園
園長 滝波 正興

徹
凡
底
事

足羽利生苑
苑長 岩本 昌雄

目次 もくじ

- 2 新年のごあいさつ
- 4 足羽福祉会 新春作品展
- 6 生きいきと若々しくいつまでも … 足羽利生苑
- 8 チャレンジすることのよろこび
～可能性を広げて～ … あすわ地域生活支援センター
- 10 手と手を取って
～連携することの大切さ～ … 足羽学園
- 12 自閉症支援トレーニングセミナーを開催しました
- 13 門松作り/まごころこめて…
- 14 愛のささえ



「表紙について」

デイサービス利用者の方による共同作品(秋の風景)の前でパチリ。いつものとびっきり笑顔の前田さん。私たちに元気をくださいます。(足羽利生苑 石田)



足羽学園



毛糸を編みこんで作った
ストラップ。
優しい色合いが
かわいいでしょ♪



あすわ就労支援センター



貼り絵の中のウグイスが
今にも鳴きだしそう♪
春が待ち遠しいですね!!

足羽更生園



ちぎり絵で桜の花を作りました。
暖かい春が待ち遠しいですね♪

新春特別企画!

利用者みなさんが
日頃から制作されている
力作をご紹介します。



愛全園



100歳の方の作品。
ほっこり!味がでてますね。



生きいきと若々しくいつまでも

ここがポイント



足羽利生苑では地域支援事業の一環として、酒生(ヤッコ)地区の荒木・稲津集落にお住まいで、介護保険サービスを利用されていない方を対象に、リハビリ体験会を開催しています。

足羽利生苑デイサービスホールを活動場所として、集落ごとに曜日を設定し、器具を使ったリハビリの提供や交流の機会を設けています。

「生きいきと若々しくいつまでも、住み慣れた地域で元気に暮らしたい」この思いを大切に、足羽利生苑が取り組んでいるリハビリ体験会をご紹介します。

張りのある生活を送りたい



先日、文部科学省より2013年度体力・運動能力調査の結果が公表されました。

高齢者は男女ともに週1回以上運動する方が約7割

で「健康への意識が高く、運動習慣がついている」との結果が出ています。

そこで地域リハビリに来ていらっしゃる方を対象に、運動・趣味・食生活についてアンケート調査を実施しました。その結果から「楽しみを持って毎日張りのある生活を送りたい」という思いが伝わってきました。

楽しみは食べること 話すこと
出かけること
心配ごととは物忘れが増えた
健康でいたい 歩けないと困る
いつまでも元気でいたい!

みなさん準備OK?



リハビリ体験会が実施される13時半ごろになると、デイサービスの一角のリハビリ室がとてにぎやかになります。「今日は腰が痛くて痛くて。温めると楽になるかな」「最近忘れることが多くて困るわ」と思いおもいに話をしながら、体の状態を記録用紙に記入していきます。

ある日のリハビリ体験会に参加された方は女性10人。近所の顔なじみの方が集まり、お茶を飲みながら世間話をすることから始まります。

職員は前回の状態と変わりがなかったか、困ったことや心配ごとがないかなど、さりげなく聞いていきます。

「日中は一人でいるから話すことが少ない。月に1回でもここに来ると知り合いと話せてうれしい」とおっしゃる方が多いようです。

さあ、頑張ろう。若返るよ!



「私は腰が痛くつて」という方には、患部を温めて痛みを軽くするホットパックが人気です。二度に4人の方に行うことができるので、仲良しの方と若いときに戻ったように夢中で話しながら、時間を過ごされています。





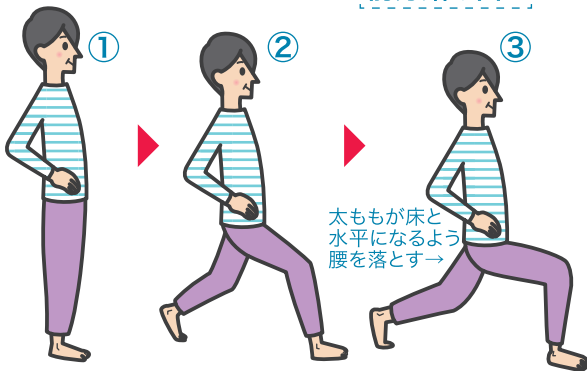
レッドコードを使って…
背中が伸びて後ろ姿から若々しく

同じ地域に住んでいてもなかなか顔を合わせる機会がないとのこと。月に1回の地域リハビリを交流のよい機会と捉え、積極的に参加される方が増えてきています。「ここに来ると本格的なりハビリ器具を使った運動ができるから楽しみ」「自宅でもできる体操や、気をつけるといいことも習える」との声もあり、リハビリ器具の専門知識を持ったインストラクターの方を講師に招き、リハビリ器具を使った運動を指導していただきました。正しく器

いつまでも自由に動ける体をつくるための
簡単エクササイズをご紹介します。

下肢の柔軟性をアップ

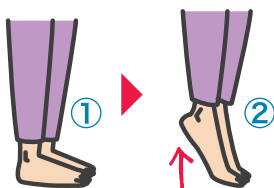
前方踏み出し



- ①両手を腰に当てて胸を張り、真っすぐに立つ。
- ②片脚をゆっくり大きく前に踏み出す。
- ③太ももが床と水平になるよう腰を深く落とし、体を上げて踏み出した足をもとに戻す。もう片方の脚も同様に。
(左右それぞれ5～10回ずつ)

ふくらはぎの筋力をアップ

かかと上げ



- ①両足で真っすぐ立つ。
- ②かかとを上げ、ゆっくりおろす。
(5～10回繰り返す)



岩盤浴で足湯気分!いい気分!

具を使ってどの部位に効果があるのかを解説いただきながら、リハビリに取り組んでいらっしやいました。

楽しみは…
ティータイム

「今日はいいい時間が過ごせよよかった」「何回できたかな」と、自分が行ったリハビリマシンの回数や時間を記録用紙に記入し、本日のリハビリメニューは終わりになります。お好きな飲み物とお茶菓子を食べながら、おしゃべりに花が咲きます。

自宅ではできない運動や、おしゃべりの機会が得られるとみなさん満足されています。



生きいきと若々しく
いつまでも

足羽利生苑の施設を使ったりハビリ体験会の参加を機に「生きいきと若々しくいつまでも健康でいられるよう、顔なじみの人と集い、楽しく過ごせる」と、地域の方々が集える場として定着し、地域に根ざした施設を目指します。



チャレンジすることのよろこび ～可能性を広げて～



* グループホームこもれび *

平成26年4月1日にあすわ地域生活支援センターの11ヶ所目のグループホームこもれびが開所され、現在10名の男性利用者の方が生活されています。こもれびでは、自宅での生活に近い雰囲気での生活をしていただけるよう日々支援を行っています。今回は、こもれびで生活を始めて一人で買い物に行けるようになったTさんについてご紹介します。

思いに 寄り添って

こもれびの利用者の方の多くは、今まで施設における大人数の中で集団生活だったため、なかなか自分たちの望む生活をするのが難しい現状にありました。ところが、グループホームでの少人数の生活に変わったことにより、利用者の方は色々な生活に対する思いを職員へ伝えて来てくださるようになりました。職員は、利用者の方の希望する暮らしを一つでも多く実現し、利用者の方の思いに寄り添う支援を行うことを目標に日々奮闘しています。

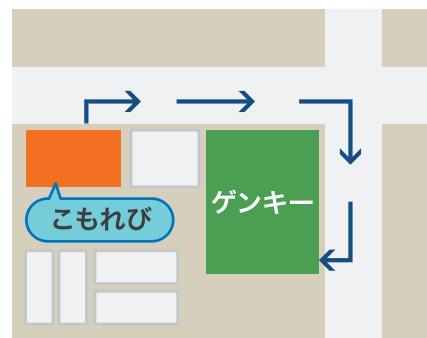
こもれびは、福井市東部に位置し、ドラッグストアや喫茶店などが徒歩で行ける距離にあります。この地域性をうまく活用し、余暇支援にも力を入れています。土日の休みには、外食や遠方へのドライブ、地域の行事に参加

するなどの取り組みを始めています。

買い物に 行きたい

最初に始めた取り組みは、Tさんの一人で買い物に行きたいという思いの実現です。自宅にいる時は、一人で買い物に出かけているということをご家族から伺い、こもれびでも徒歩で行ける一番近くのドラッグストア「ゲンキー」へ一人で買い物に行けるようになることを目標に設定しました。

まず、ドラッグストア「ゲン



キー」の店長さんにこもれびの場所と、こもれびがどのようなところなのかを説明し、Tさんが今後一人で買い物ができるよう支援をしていくことをお伝えしました。



Tさん 50代

身の回りのことは自分でできるが、言葉にして相手に伝えることは難しい。

コミュニケーション方法

<ジェスチャー>

- ・両手を前でぐるぐるする
⇒キッチンペーパーが欲しい
- ・飲む仕草
⇒飲み物が欲しい

思いの実現



Tさんは、しゃべることができず自らの思いをジェスチャーや文字で伝えて来てくださる方です。買い物初日は、Tさん自身が使うキッチンペーパーがなくなり買いに行きたいとTさんより訴えがありました。そこで、キッチンペーパーを2つ買ってきてくださいと伝え、財布に1000円を入れて渡しました。



①商品選び



②会計



③こもればまで帰宅

お金が不足していました。職員が間に入り購入することはできましたが、これをきっかけに買い物へ行くと時には、まずTさんに買いたい物は何かを聞いて『お金が不足して困ったときやトラブル時の連絡先にTさんの名前と、こもればの電話番号が書かれたカード』を財布に入れ、お金も2000円に増やして出かけていただくようにしました。

利用者の方の思いを実現するためには、一人ひとりの得意なことや好きなことに目を向け、利用者の方の力を十分に活かせる支援の方法を考えていくことが今回の取り組みを通して重要だと思いました。この方には難しいだろうという決めつけをせずに、まずはチャレンジをして、目標達成までの段階を踏んで支援を行っていくこと、それが利用者の方にとっての第一歩になると思います。

職員は、利用者の方の希望を叶える架け橋となる役目を担っています。利用者の方の生活の充実を図るために、今後もより一層さまざまなことにチャレンジし、利用者の方が笑顔で過ごしていただけのような支援を行ってきたいです。

一歩一歩



グループホームこもればが開所してから早いもので9か月が過ぎました。開所当時、利用者の方は環境が変わり、とまどいが見られましたが、現在はこもればでの生活にも慣れ、買い物外出に行ったり、こもれば内でもリラックサされたりして過ごされています。

地域で「ご本人らしく暮らせる」よう私たち職員、利用者の方、共に安心・楽しみをもって成長していけたらと思っています。

あすわ地域生活

支援センター

生活支援員 辻本 弘治





手と手を取って ～連携することの大切さ～

利用者の方の成長を目にすることは、ご家族の方だけではなく私たち職員もうれしいものです。成長のために支援が必要な場合もあります。今回は特別支援学校と連携した取り組みについてご紹介します。

成長に欠かせないものの一つに、歯磨きがあります。食べることだけではなく、食後に歯磨きをして、歯を健康に保つことも成長には必要です。

足羽学園の利用者の方の中には、歯磨きが苦手な方や、すぐに終わろうとして丁寧に磨けない方がいます。しかし、何度も繰り返し練習していくことで、少しずつできるようになっていきます。

今回取り上げるのは、現在中学部3年生の川越信一さんです。歯ブラシを動かすことはできるものの、適当に終わらせてしまうので、職員が付き添って歯磨きをしています。



場所と時間が示されています

そこで、個別支援計画に基づいた支援を行う中で『全体を10カウントずつ丁寧に磨ける』よう、自分でカウントしながら磨いていました。

しかしある程度磨けてはいるものの、どこを磨いているのか意識ができていないようでした。そこで、本人に意識をさせていただけるよう、またどれだけ磨けばよいかわかるよう、視覚情報を用いるようにしました。



すると今度は数を数えることに意識が向いてしまい、歯ブラシを動かすことに集中できていない様子が見られました。そして記録用紙の備考欄にもそのことが記載されることが多かったです。

	①	②	①、②の状況
17	○	○	
18	△	△	<u>集中できずいい。</u>
19	△	○	<u>①集中しておらず。</u>
20	△	○	<u>①集中してない</u> <u>②上手にできて三!!</u>
21	△	△	<u>①集中していない</u>
22			

①が歯磨き、②は洗面について

そのような状況が続く、毎月振り返りを行う中で、何とかできないか。学校ではどのように支援をしているのだろうかとの思いから、特別支援学校との連絡会で支援方法について伺いました。すると、足羽学園で使用していたものとは違う視覚情報、デジタルのタイマー、マグネットを使用しているということを知りました。



そこで早速、足羽学園でも同様の支援を試みることにしました。すると、学校で既に取り組んでいる方法なので、自らタイマーのセットをして、磨く位置が示されているイラストのところにもマグネットを動かし、歯磨きを始めたのです。私たち職員が最初に驚いたのは、川越さんがタイマーを使えるということでした。足羽学園では、支援の際にあまりタイマーを使っていないので、川越さんが自分で使えるということを知らなかつたからです。



自らタイマーを使っています

そしてこの方法ではタイマーを使うため、川越さん自身数が数える必要はなく、歯ブラシを動かすことに集中できます。また磨く位置については、マグネットを動かすことでどこを磨くかを意識しやすいようになつており、これまで使用していたものよりも川越さんには使いやすいということがわかりました。



新しい視覚情報!



この方法を取り入れたからといって、川越さんが歯磨きを丁寧にできるようになったとは言いきれません。なぜなら、磨いている途中で口を閉じて歯ブラシを吸っていたり、タイマーの秒数が気になり磨くことに集中できなくなったりしているからです。

しかし今回のことで、関係機関が意見を交わすことにより、利用者の方の新たな発見や成長につながるといふことを実感しました。そして、職員の統一した支援はもちろんのこと、ときにはご家族と連携や協力も必要になります。それらが合わさることで、利用者の方の成長につながるということを信じ、これからも個々の段階に沿った支援をしていきたいと思えます。

【川越さん母より】

私たちでも、しっかりと歯磨きができていると思つていても、歯科医に行くと磨き方の指導をされることがあります。丁寧に磨くことは簡単なことではないですね。

でも、できるだけ長く自分の歯のままできてほしいです。義歯でも食事はできるけれど、自分の歯で食べる方がきつと、おいしく感じるだろうと思うので。

それに息子は、歯科医での治療の音が苦手なので、思うように治療が進みません。苦手な治療をしないためのには、今のうちからしっかりと歯磨きができるようになってほしいですね。

以前よりも少しずつできるようになってきているのはうれしいですね。これからもよろしく願います。

～自閉症支援の輪を広げるために～ 自閉症支援トレーニングセミナーを開催しました

セミナー概要

去る、平成26年11月8日(土)9日(日)の2日間、足羽福祉会法人本部の研修センターにて「福井県自閉症支援トレーニングセミナー2014」を開催しました。このセミナーは福井県発達障害児者支援センター「スクラム福井」様が、2007年から自閉症スペクトラム障がい(以下自閉症)の支援者を養成することを目的に実施されておりましたが、昨年度よりそれを引き継ぐ形で当法人が実施することになりました。

開催にあたり、運営のノウハウをスクラム福井様にご教授いただいたり、スクラム福井様が参考にされたという「京都市発達障害者支援センター」様を見学させていただいたりして準備を進めてまいりました。

自閉症の利用者の方に、実際にモデルとなっていただきました。ご協力ありがとうございました。



セミナーの特徴 ①

一つ目の特徴は、単に講義を中心として新たな知識を得ていくだけではなく、当事者である自閉症の利用者の方にご協力いただき、講義で得られた知識を基に受講生で作られたグループにて協議しながら、その場で実践していくことです。各グループにはトレーナーが1人付き、指導と助言を繰り返していきます。受講生は18名ですが、それらを取り巻くスタッフは19名と一見非効率なように見えますが、専門的な支援を学ぶ環境を整えるため、このような体制で行っています。

現在の福祉を取り巻く環境では、1人の利用者の方を1施設・1事業所が支えていくということは困難です。ご家族などはもちろん、他の福祉事業所、教育、医療、行政などの各機関の持っている専門性を重視しながら、共通認識のもとその方を支えていくことが大事になってきます。そのためこのセミナーはチームとして協働し実践していく経験を養うプログラムとなっています。



セミナーの特徴 ②

二つ目の特徴として「評価」が挙げられます。その方を支援していく上で正しい評価のもと、計画的に支援していくことが重要になります。誤った評価や職員によって異なる評価ではチームでの統一した支援はできなくなります。ですから評価を行う前もどの部分に着目して行うかを協議した上で実施し、それぞれがとった評価についてもチーム内で活発に議論がなされます。どうすれば利用者の方の理解がスムーズにいき、混乱なく活動できるのかということについて再度チーム内で考えていきます。



リラックスした雰囲気

利用者の方には、事前にいただいていた資料を基に安心して過ごせるように、トレーナーを中心にレイアウトしたエリアで過ごしていただきました。個別化されたスペースで見通しがもてるスケジュールに沿って過ごしていくことで、徐々にリラックスされていく様子が見えました。理解して活動することは、安心して過ごすことにつながっていくと改めて実感しました。



支援の輪を広げるために

受講生のみなさんのご所属は福井県を中心に障がい福祉サービス事業所や医療機関・学校と多岐に渡っています。特有のコミュニケーション方法を理解することは、当事者の方と支援者とのキャッチボールを可能としていきます。そしてそれを続けていくことで信頼関係も築くことができ、社会とのつながりも増えていきます。今後もこのようなセミナーを継続することで、当事者の方々を支援する手が増え、その手と手をつなげて大きな輪となっていくことを期待しています。

足羽学園 課長 渡辺 浩基

門松作り

足羽利生苑デイサービスセンターには、
地域の方が毎年門松を作りに来てくださいます。
今年も立派な門松が来苑される方を迎えてくれます。



↑本の竹を3本に切って使います



↑男結びをしてしっかりと束ねます



↑立派な門松ができあがりしました



↑南天は「難を転ずる」という意味があります



まごころこめて届けます♡ ~ 議会食堂あすわ ~

あすわ就労支援センターが委託運営している
「議会食堂あすわ」のご紹介をします！

議会食堂では手作りヘルシーメニューを中心とした、べっぴん
ランチの他に月一回の季節を味わえるイベントも実施中です☆

メニューの盛り付けは利用者の方が中心となり、
お客様においしく召し上がっていただくために
日々奮闘しています😊

愛情たっぷりのごはんをぜひご賞味くださいネ^^



一番人気

べっぴんランチ(日替わり定食)
メイン+副菜3品+デザートで600円

議会食堂あすわ

🔍 検索

詳しくは [Facebook](#) や [Amebaブログ](#) にて★



毎月第2・4金曜日は、福井県庁1階ホールにて、お弁当販売も行っております。/

